

平成26年度 新発田市総合学習部 活動報告

部長 磯部 博幸

1 研究主題 子どもの思いを大切にした総合の在り方

2 研究の概要

4月10日(木) 第1回 研修テーマ・活動計画立案

6月13日(金) 第2回 教材研究 そばの教材化を考える～そば打ち体験を通して

11月14日(金) 第3回 授業研究 第5学年「目指せ！新発田の特産品博士！」

3 研究の実際

(1) 第2回部会

新発田の食に関する学習を予定しているという授業者の話を受けて、第2回部会はそのための教材研究的なものにできないかと考えた。「最近新発田でもそばの栽培が盛んになってきているが、なぜ新発田でそばなのか」という疑問から、その件についてお聞きすることができないか、そして、そば打ちが体験できないかということで第2回部会の内容を決定した。

お話を聞いて、そして、実際にそばを打つことを通して、教材化の視点(耕作放棄地、新発田の特産物にしようとする思いなど)を得るとともに、子どもたち同士かかわり合いながら楽しく活動できるなど、そば打ちの教材化の可能性を探ることができた。しかし、そばアレルギーについては無視することはできず、また、そば打ちをするにしても、そばの栽培から収穫して食べるといった長期的な活動に取り組むにしても、有識者・経験者の指導、地域のボランティアなどがないと難しいという結論に至った。



(2) 第3回部会

新発田市立東豊小学校、近誠講師による授業を参観し、協議会を行った。

授業の導入では、「地産地消」をキーワードに、リンゴ、米、アスパラガスが新発田市でどのくらい作られていてどのくらい消費されているのかを県と比べながら提示し、児童を引き付けていた。それから、アピールするにはパンフレットがあるといいということを子どもたちと確認し、どんな内容を載せるとよいかをグループごとに話し合った。



協議の柱は、①子どもの思いを大切にすることについて、②地域の特産物を扱ったことについて、であった。①については、アピールするための方法としてパンフレットを作ることが子どもたちの意識につながっていたか、また、ほかの手段もあったのではないかなど、本時で扱ったパンフレットが妥当であったのかという点で話し合われた。②については、地域を、しかも、食を扱うことは子どもたちの興味を引き付ける何よりの教材であるとした上で、提示したデータや「地産地消」というキーワードから「もっと消費量を増やしたい」「もっとアピールしたい」という子どもたちの思いにつなげていけばよかったのではないかという意見が出された。指導者からは、グループごとの話し合いの進め方として、ランキングづけや意見の可視化などを紹介していただいた。

4 成果と課題

第2回部会におけるそばの教材研究は、第3回の授業研究の学習内容に直接は結びつかなかった。しかし、教師が知っている、経験があるということは、引き出しをたくさん持つことにつながり、学習で地域を扱うにあたっては少なからず有効であったものと思われる。総合学習においては特に、教師がいかにたくさんの引き出しをもっているかが鍵であり、そのための研修を今後も大事にしていきたい。また、地域の特産物を扱うことは子どもたちの地域への愛着、引いては生き方につながるものであるとご指導いただき、地域教材の価値について再認識するとともに、大切にして生きなければならないと改めて気付かされた。今後は各校で実践されている地域教材について情報交換し、共有したい。